

<クロザリル治療部門について>

クロザリル治療について

『最後の切り札』新薬クロザピン

クロザピン(商品名:クロザリル)は、今まで複数の抗精神病薬による治療を受けてきたにもかかわらず、症状が十分に良くならなかった統合失調症の患者さんに対して、効果があることが世界で唯一認められた薬です。

日本では2009年から新しく使われ始めたばかりで、決められた基準を満たした病院・医師でないと処方できないようになっています。現在、**熊本県では当院を含め、3施設でのみ**で使用することが可能です。

クロザピン【薬剤】について

クロザピンは、現在世界97カ国の国で使用されており、他の抗精神病薬で十分な治療効果が得られない『難治性統合失調症』に対して、もっとも高い評価を受けている薬です。

たとえば…

長い間病院に入院を余儀なくされていた方が、自宅で家族と暮らせるようになった…

頭に聞こえてくる声におびえて、長年部屋に引きこもっていた方が、笑顔で人と会話し、外出できるようになった…

長年つらい症状に苦しんできた患者さんやご家族にとって、希望の道をひらく可能性のある、『最後の切り札』とも言われる治療薬です。

ではなぜ、そんな良く効く薬が、日本では今まで使われずにきたのでしょうか？

副作用について

クロザピンは、『好中球減少症』や『無顆粒球症』という副作用が起きる可能性があるため、これまで日本では使用が許可されていませんでした。顆粒球というのは、血

液中にある細胞のひとつで、身体を細菌の攻撃から守る働きをしています。そのため、顆粒球の数が減ってしまうと、感染症にかかりやすくなってしまいます。

「そんな怖い薬は使いたくない」と思う方が多いかもしれませんが、ですが、そういった副作用があるにもかかわらず、この薬が今日世界中で数多く使用され、日本でも慎重な試験使用の期間を経て、ついに使用できるようになったのは、やはりこの薬が今までの治療では良くならなかった統合失調症にも非常に高い効果を持ち、それによって多くの患者さんの生活に希望をもたらしてきたという事実があるからです。

では、この薬を安全に使うために、どんな制度がつけられているのでしょうか。

<クロザリル患者モニタリングサービス(CPMS)>について

クロザリルを使用するにあたって、病院・医療関係者・患者さんは、あらかじめCPMSというシステムに登録を行うことが義務付けられています。

これは、それぞれの患者さんに対して、適切な頻度で検査が行われ、安全に使用されているかを絶えず確認するためのものです。仮に副作用を起こした場合にも、早くに発見して適切な治療を受けることで、完全に回復することができるのです。

受診希望の方へ

クロザピンを使ってみたい、詳しい説明を受けたい、とお考えの方は、まずは現在かかっている主治医の先生にご相談なさって、紹介状をもらって来ていただくようお願いいたします。

初回受診時はご家族のみでも可能です。電話にてご予約ください。

◎問い合わせ先

国立病院機構菊池病院 担当:地域医療連携室

電話:096-248-2111(代表)

医療関係者の方へ

紹介をお考えになる患者様がいらっしゃいましたら、→**地域医療連携室**までお問い合わせ下さい。

〒861-1116 熊本県合志市福原208

国立病院機構菊池病院

地域医療連携室 (直通) TEL・FAX (096-248-2124)